

平成20年度全国学力・学習状況調査からみた

大阪の子どもたちのようす

学力と、
子どもの意欲や態度・
生活習慣とは
密接に関連しています

■ 学力や学習状況の課題

小中学校ともに、対象となった国語、算数、数学の各教科で、全国平均を下回っています

□平成20年度の結果(全国・府)

	校種	教科	平成20年度				平成19年度			
			大阪府		全国		大阪府		全国	
			区分	割合	区分	割合	区分	割合	区分	割合
小学校	国語	A区分	62.7	65.4	-2.7	79.4	81.7	-2.3		
		B区分	47.0	50.5	-3.5	58.0	62.0	-4.0		
	算数	A区分	71.2	72.2	-1.0	80.5	82.1	-1.6		
		B区分	49.9	51.6	-1.7	60.7	63.6	-2.9		
中学校	国語	A区分	70.5	73.6	-3.1	79.2	81.6	-2.4		
		B区分	55.2	60.8	-5.6	65.0	72.0	-7.0		
	数学	A区分	60.5	63.1	-2.6	69.4	71.9	-2.5		
		B区分	45.2	49.2	-4.0	55.3	60.6	-5.3		

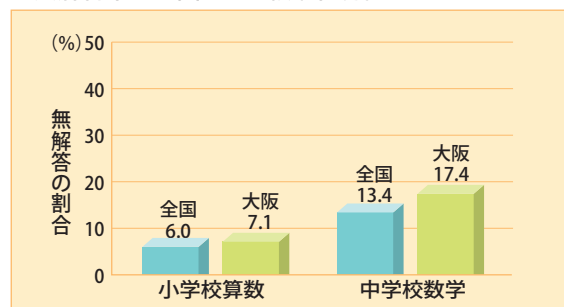
A区分:主として「知識」に関する問題
B区分:主として「活用」に関する問題

- 「A区分」の問題も全国平均を下回っていますが、「B区分」では、さらにその差が大きくなっています。
- 特に、中学校では、「A区分」「B区分」とも、その差が大きくなっています。



■ 答えを書いていない子どもが多い

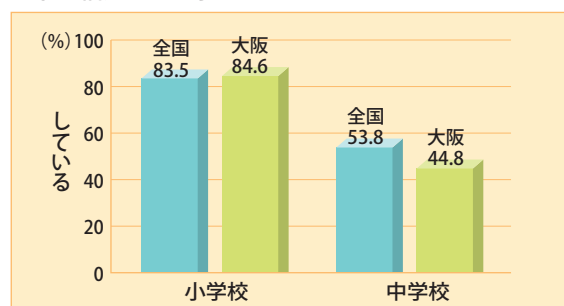
□無解答率の全国との比較(B区分)



- 小中学校とも、無解答率が全国平均よりも高くなっています。
- 特に、中学校のほうが無解答率が高くなり、全国との差も大きくなっています。
- ★ **むずかしい問題は、すぐにあきらめてしまう子どもが多いのではないかと考えられます。**

■ 中学生になると宿題をする子どもが減少する

□家で宿題をする子ども

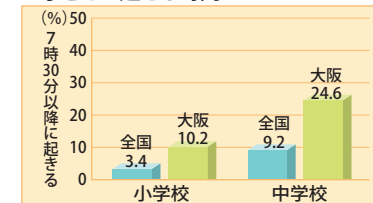


- 宿題をする中学生の割合が全国平均よりも低くなっています。
- 特に、中学生になると小学生にくらべて宿題をする子どもの割合がおおきく減少します。
- ★ **中学生の宿題に対する考え方、家庭での学習習慣に課題があると考えられます。**

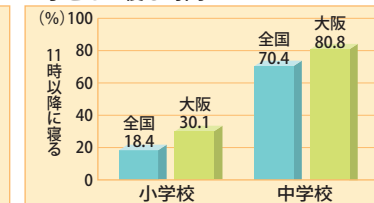
■ 生活面での課題

■ 早寝、早起きの子が少ない

□子どもの起きる時間



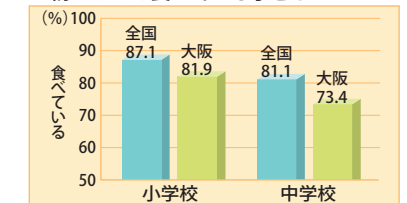
□子どもの寝る時間



- 睡眠時間や食事などの生活のリズムが身につけていない子どもが全国と比べて多いとの結果が出ています。

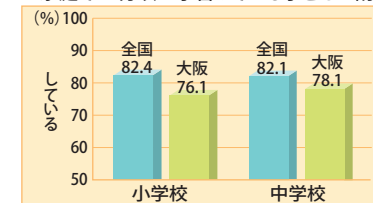
■ 毎日、朝ごはんを食べる子どもが少ない

□朝ごはんを食べている子ども

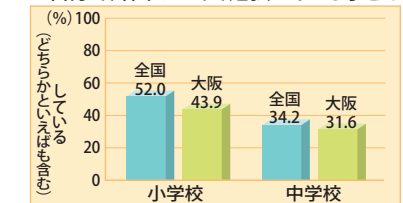


■ 家庭での学習習慣が身につけていない

□家庭で30分以上学習している子どもの割合



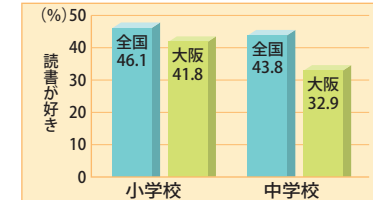
□自分で計画を立てて勉強している子ども



- その日に学んだことを、家庭でしっかりと定着させることは確かな学力を身につける上で不可欠ですが、小中学生ともに、家庭での学習習慣が身につけていない子どもが多いのが現状です。

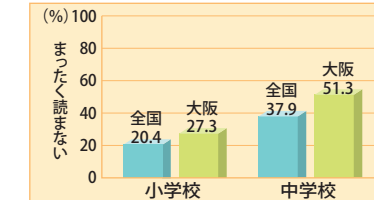
■ 読書が好きで少ない

□読書が好きと答えた子ども



■ 読書時間が少ない

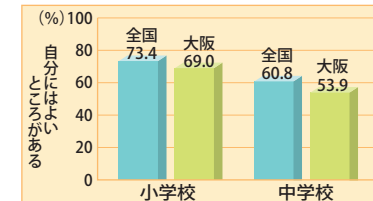
□1日の中で本を読む時間



- 読書が好きで子どもの割合が少なく、読書習慣のない子どもの割合が高いとの結果が出ています。

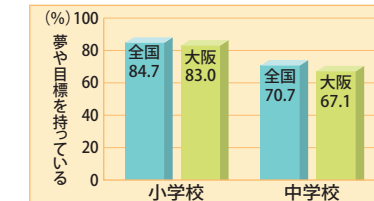
■ 自分に自信のある子どもが少ない

□自分に自信のある子ども



■ 将来への夢や目標を持っている子どもが少ない

□将来の夢や目標を持っている



- 自分に自信がなく、将来の夢や目標を持っていない子どもが多いとの結果が出ています。

